

## 食卓の環境倫理

株式会社グッドバンカー  
リサーチチーム

2月の「グッドバンカー社便り」で食卓と環境問題についてとりあげましたが、環境問題はまた倫理の問題ともいえます。元環境庁の初代地球環境部長だった加藤三郎氏によって創設された、「環境文明 21」という先駆的な NPO があります。当社は 1998 年の設立以来、この NPO と協力関係にあります。「環境文明 21」では、人と人の間で守るべきことを倫理というように、人と自然環境の関係において人が守るべきことが環境倫理であると定義づけています。そして、環境倫理の三要素として、循環・共存・抑制というキーワードをあげています。循環は地球の限界の中での人類社会の持続可能性をはかること、共存は生きとし生けるすべてのものとの共生、抑制は足るを知り、自然や文化を愛して心豊かに生きることで、そのことが地球を守ることに繋がるとしています。この観点から毎日の食卓を見直せば、何をどのように食べるべきかがおのずと決まってくるのではないのでしょうか。

世界には飢えている人が数 10 億人以上もいる時、飽食と食べ残しが倫理的であるとは言えません。エネルギーと資源の多消費が環境問題の悪化と気候変動をもたらし、地球規模の災害の多発により、人々の生存がおびやかされている時、私たちの食生活のスタイルもまた、倫理的であることが求められているのではないのでしょうか。食品産業のなかでは、環境問題に関する人々の知識を増やし意識を変えることで、より環境に配慮した行動につながるよう、消費者の啓発に熱心な企業があります。また製造工程で発生する規格外品などを福祉施設などへ無料で提供するフードバンクの活動を支援し、食品ロスの削減に努めている企業もあります。このような企業の活動を評価し、投資することも、私たちの食卓の環境倫理と密接に関わっているのです。